

ICCAIA年次総会について

7月21日、ロンドン市内でICCAIA（International Coordinating Council of Aerospace Industries Association；国際航空宇宙工業会協議会）の年次総会が開催されたので、その概要を以下に報告する。



左から今清水専務、ラジュネスAIAC専務、ブレーキAIA専務、
ガイエASD専務、バルテルAIAB専務

1. ICCAIAとは

世界の主要な航空宇宙工業会が集まり、1) それぞれの国の活動について情報交換する、2) ICAO（国際民間航空機関）が策定する環境、安全などの規制に製造業者の経験、意見を反映させるための活動を推進する、目的で1972年に設立された。

現在、米国（AIA）、欧州（ASD）、カナダ（AIAC）、ブラジル（AIAB）そして日本（SJAC）が加盟している。今年から、ロシアがオブザーバ参加している。

毎年、ファンボローまたはパリのエア・ショー開催時に、専務レベルの総会を開催し、各国の航空宇宙産業について情報交換するほか、ICAOの活動に対して設立された四つの委

員会（①騒音・エンジン排出物委員会、②通信・航法・監視・交通管制委員会、③耐空性委員会、④セキュリティ）の活動について報告を聞き、今後の対応方針などを決定している。

2. 2010年度年次総会報告

（1）各国の航空宇宙産業の状況

欧州および米国の航空宇宙産業には、リーマンショックの影響は2009年の統計値には現れておらず、依然、全体で3-4%の伸びになっている。一方、日本、ブラジル、カナダは民間航空機の売り上げが下がっていることなどが影響し、全体での売り上げを下げている。

2009年航空宇宙産業の売上を前年度比も併せて次に示す。

2009年	民需（含む宇宙）	防衛	合計（カッコ内は金額）
米 国	+2.1%	+ 9.1%	+4.0%（2,152億米\$）
欧 州	不明	不明	+2.8%（1,058億ユーロ）
日 本	-4.6%	-18.2%	-11.4%（1兆3,420億円）
ブラジル	不明	不明	-6.6%（71億米\$）
カナダ	不明	不明	-6.4%（221億カナダ\$）

米国の売り上げは、2004年以降増加しており、昨年比で4%の伸びを示し、過去最高値を記録している。統計値としては、今年の売り上げから景気低迷の影響が出るとしているが、その影響は今年はじめに想定したものよりは軽微であろうと、米国航空宇宙工業会は予想している。防衛関連も堅調と言っており、日本で防衛関係の売り上げが減少していることと対照的である。民間はB787の遅れでキャンセルが多少発生しても、旅行客が増えるなど好転する要素もあり、受注残高は減らないと強気の見通しを出している。

欧州は、防衛と民間の売り上げ区分が不明であるが、合計値はユーロで2.8%の伸びを示している。今年の売り上げから経済危機の影響がでると、述べている。

日本は、全体の売り上げが11%下がっており、民間が5%減少、防衛が18%減少と、ともに減少している。その比率は、民間が54%、防衛が46%で、民間の売り上げが防衛を上回る傾向がここ数年続いている。

カナダは、全体売り上げが6%下がっている。輸出は全体の75%を占め、貿易相手の中心は米国であり、JSFへの参加やボーイング社との取引など近隣国として密接な関係を持っていることから、米国からの仕事が減っていることが伺える。

ブラジルは、売り上げが約7%減少しており、それに対応して雇用の減少も見られる。一方2009年は、RRJ-135（37席ターボプロップ）を転用したビジネスジェット機Legacy 650がローンチしたり、9人乗りPhenom300が型式承

認を取得したりと、活気のある状況にあることが伺える。2010年の見通しは必ずしも好転しないとしているが、Legacy 650の型式承認取得に期待を寄せている。

(2) モントリオール駐在員

モントリオール駐在員は、ICCAIAがICAO本部のあるモントリオールに2年前から置く駐在員であり、ICCAIAの指示のもと、ICAOの代表や職員、各国代表、IATAなど他機関の代表との間で連絡等の役割を果たす。駐在員は、ICAOの各種委員会（Council）、その分科会（Committee or Working Group）などからの情報を収集し、定期的にICCAIAの各国専務や各内部委員会議長に報告したり、ICAO内部の職員へICCAIAを代表する働きを行ってきた。駐在員に対する各国専務、各内部会議長の評価は高いものがあつた。この評価の結果、各国の負担金は増やさないという条件の下で、給与に対する支払いを一部増額する提案が出され、認めることとなった。

なお、今年9月28日からモントリオールにてICAO第37回総会が開催されるが、全体会議、環境会議などICCAIAの誰が、いつ参加すべきか、駐在員に原案の提示が求められた。

(3) ロシア航空宇宙工業会（UAI；Union of Aviation Industry of Russian）の参加

ASDの強い支援で、ロシアがICCAIAにオブザーバ参加することになった。ASDがICCAIAへの参加を後押しする理由の1つは、欧州の企業がロシアの航空宇宙産業と密接な関係を

有していることが挙げられる。例えば、イタリアのアレニア社がロシアと共同で民間機SSJ100（70-100席）の開発をし、また、フランスのスネクマ社が同機のエンジンSam146を共同開発するなど、積極的な展開が見られている。一方、ロシア側には欧州の型式承認を取得するため、その基準の理解や国際的な枠組みであるICAOの動向などの情報を得たい希望があり、その両者が一致して、ICCAIAへの参加となった。

UAIの組織は、総会（Common members of the Union）、理事会（Supervisory Council）のもと、5つの委員会（①国際委員会、②科学研究委員会、③標準化委員会、④耐空性、飛行安全委員会、⑤企業交流委員会）を設置している。構成セクターは、航空機、ヘリコプタ、エンジン、航空計器、機器、研究センターの6つから成っており、その会員企業の合計は150社を超えるという。会長は、UAC（United Aircraft Corporation）社の社長Aleksey Fedorov氏、専務はEugene Fedosov氏（GosNIIAS／ロシア国立航空システム研究所のDirector of Science）である。

しかし、AIAや日本はUAIが政府から完全に独立した組織でないことを懸念して、当面ICCAIAの委員会活動やICCAIA総会にそれぞれオブザーバ参加できることとするが、自動的に2年で正会員になれないよう規約の変更を行った。今後、インドや中国などがICCAIAに参加する可能性もあり、航空機の最終引渡しを行う国々が増えて行く動きのなかで、

SJACの立場が相対的に低くならないよう、心がけてゆきたい。

（4）企業倫理

企業倫理については、ASDとAIAが「Global Principle」と称した共通の倫理憲章を作成して、双方の傘下企業にサインを求める活動を行っている。欧州の制定した「Common Industry Standard」が下敷きとなっており、内容は、企業内にコンプライアンス責任者の設置、内部監査の実施、代理人への支払いの帳簿等への明記などを定めており、取引先に賄賂を贈らないことに重点を置いた憲章となっている。

一方、この憲章を国際的に展開するため、手始めにICCAIA参加国が率先してこれを押し進めることをAIAが今回提案してきた。AIAの説明には無かったが、独立した審査機関を作り、毎年2回国際的フォーラムを開催し、良好な事例や、各企業の実施例などを交換し合うことを欧米で検討している。また、参加各社には、毎年1回、善良な管理を行っていることを証明する報告書の提出を求めたり、その活動の会費も徴収するといったことも検討されている模様である。SJACとしては、ICCAIAの議論を踏まえてSJAC倫理規定を2年前に制定したこと、「Global Principle」作成過程に参加していないことを指摘して、時間をかけて会員の理解を得るよう努めることが大切だ、と主張した。今後AIAとの関係も考えながら、会員企業とよく相談して、対応してゆきたい。

〔(社)日本航空宇宙工業会 国際部長 板原 寛治〕

	<p>この事業は、競輪の補助金を受けて実施したものです。 http://www.ringring-keirin.jp</p>	
---	---	---